

トルコギキョウ覆輪品種「メロウローズピコ」の花弁の着色割合と栽培温度との関係

トルコギキョウの覆輪品種「メロウローズピコ」を昼温25 で開花させると、着色割合が低い花弁から高い花弁まで生じ、品質のバラツキが大きい。昼温30 以上では、すべての花弁の着色割合が30%以下になり品質のバラツキは小さいが、昼夜温較差が大きいほど花弁の着色割合が高くなる。

農業研究センター農産園芸研究所花き部 (担当者: 渡邊 功)

研究のねらい

トルコギキョウの覆輪品種は、開花時期や天候によって覆輪部分の大きさが変化し、花弁の周囲が着色した花、花弁全体が着色した花が生じて品質が安定しない。特に冬季は覆輪の発現が安定しないため、花弁の着色割合に及ぼす栽培温度の影響を明らかにする。

研究の成果

- 1 昼温25 の花弁の着色割合の平均は、夜温の高低に関わらず約20%あり、昼温30 以上の10%以下に比べて高い(図3)。
- 2 昼温30 以上では、昼夜温較差が大きいほど花弁の着色割合が高くなる(図3)。
- 3 昼温25 では花弁の着色割合が低い花弁から高い花弁まで生じ、品質に大きなバラツキが生じる。(表1)。
- 4 昼温30 以上では、すべての花弁の着色割合が30%以下になり、品質のバラツキは小さい(表1)。

普及上の留意点

- 1 今後、高温管理が必要な生育ステージを明らかにする必要がある。
- 2 本試験は、生理生態解析温室を用い昼温を10時間一定温度に固定して行ったので、高温管理の時間が何時間が適当か明らかにする必要がある。



図1 供試品種「メロウローズピコ」の覆輪



図2 覆輪の発現程度（左から着色割合3%、9%、20%、32%、49%、100%）
注：理想的な覆輪発現程度は着色割合5～20%程度である。

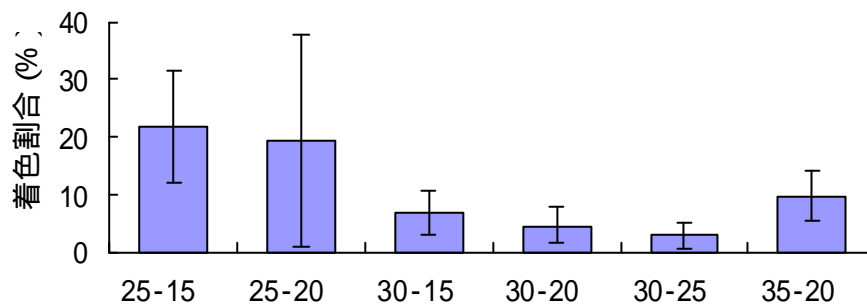


図3 花弁の着色割合に及ぼす栽培温度の影響
(昼温 - 夜温)

表1 各試験区の花弁の着色割合の頻度分布

試験区 昼温 - 夜温	花弁の着色割合 (%)									
	0~10	~20	~30	~40	~50	~60	~70	~80	~90	~100
25 - 15	11.8	38.4	30.8	16.2	2.0	0.4	0.2			
25 - 20	23.8	47.7	18.1	2.9	2.6	0.3	0.3	1.2		3.2
30 - 15	88.5	10.2	1.3							
30 - 20	90.6	9.5								
30 - 25	99.6	0.4								
35 - 20	64.2	33.1	2.6							

注) 平成12年8月15日播種、10月18日定植の翌年の3～4月採花。
温度処理は平成12年12月4日から採花まで行った。